

平成 21 年度社会参画活動育成事業報告書

1 事業の概要

(1) 社会参画活動育成事業 病院際集の作成と健康フェスティバルの開催

(2) 目的・概要

本事業の目的は、日本で暮らすための情報が届きにくい日系ブラジル人コミュニティへ医療に関する情報を伝え、健康の保持増進をサポートすることであった。この目的を果たすため、以下の活動を行った。

① 病院会話集の作成

クリニックでの会話をサポートするために、月に 1 回ワークショップ形式で受診や薬局での会話を補助するための会話集を作成した。会話集はブラジル人学校、日本語教室、保見団地周辺の小中学校、コミュニティの通訳者に無料で配布した。

② 医療マップ、医療情報の作成

平成 22 年 3 月 11 日に NPO 法人トルシーダ主催、開催の健康相談会に、当グループは医療マップを用いてフォローアップを行った。また、新型インフルエンザの情報の伝達と不安の軽減を目的に、豊田日伯協会、保見が丘ブラジル人協会、NPO 法人トルシーダと連携して、新型インフルエンザの予防と対策について日系ブラジル人コミュニティに情報発信を行った。日本語教室 CSN と EAS 豊田校にて、新型インフルエンザに関する講話を行った。新型インフルエンザの予防と対策に関するチラシを作成し、ブラジル人学校、日本語教室に配布した。保見が丘ブラジル人協会が作成している情報誌「保見が丘インフォメーション」の 1 月号に新型インフルエンザに関する情報を掲載した。

③ 健康フェスティバルの開催

保見地区に暮らす日系ブラジル人が多く参加する「ビバ！ブラジルデー2009」にブースを設けて健康相談を行うとともに、医療情報の発信を行った。

(3) 受託団体の概要

①外国人医療支援グループの活動について

豊田市およびその周辺に在住する外国人が疾病の予防、治療、健康の保持増進に向けて主体的に活動するとともに、日本人と同等の医療サービスを受けることができるように支援活動をする。会員は 13 名。参加資格は特にない。構成員は学生、会社員、大学職員、主婦などさまざまである。毎月第 2 日曜日の午後 14 時から 17 時まで、保見交流館で会議を行う。

②活動の歩み

1998 年 豊田市国際交流協会 (TIA) に登録するボランティアグループとしてスタート。

1999 年 豊田市保見団地ヒヤリング、ネパール人健康診断会、セミナー「ふれ

あい講座」

- 2000 年 日本財団活動助成、フィリピン人健康教育、ペルー人健康診断会、ネパール、ブラジル人健康診断会、ブラジル人学校健康診断会
- 2001 年 セミナー開催
- 2002 年 ブラジル人学校健康診断会、ネパール人健康診断会
- 2003 年 豊田市ブラジル人学校ヒヤリング、安生ブラジル人学校健康診断会
- 2004 年 豊田市保見団地でブラジル人学校児童、生徒の健康相談会
- 2005 年 豊田市保見団地でブラジル人学校児童、生徒の健康相談会
- 2006 年 とよた市民活動センターにボランティアグループとして登録、はじめの一步助成、豊田市保見団地でブラジル人学校児童、生徒の健康相談会
- 2007 年 愛知県多文化共生社会づくり推進事業「地域で支える外国人の健康推進の会」、豊田市保見団地でブラジル人学校児童、生徒の健康相談会
- 2008 年 平成 20 年度 公益信託愛・地球博開催地域社会貢献活動基金助成、愛知県多文化共生社会づくり推進事業「在住外国人によるコミュニティサポーター育成」、保見交流館でブラジル人学校児童、生徒の健康相談会
- 2009 年 国際交流推進事業費補助金「在住外国人のための生活 情報の提供およびポルトガル語学習会」、平成 21 年度愛知県社会参画活動育成事業「病院会話集の作成と健康フェスティバルの開催」

2 事業の実施状況（実施期間、実施場所、実施体制、参加者（対象者）、準備作業、事業の具体的内容等）

（1）実施期間：

①病院会話集の作成

平成 21 年 10 月 25 日、11 月 8 日、12 月 13 日、平成 22 年 1 月 17 日、2 月 14 日の 12 時 30 分から 14 時 30 分まで。

② 医療マップ、医療情報の作成

医療マップの作成は平成 22 年 2 月 14 日、医療マップを用いたフォローアップは 3 月 11 日に開催された健康相談会（NPO 法人トルシーダ主催）にて実施した。

新型インフルエンザの情報の作成と伝達については、平成 21 年 10 月 2 日 11 時から日本語教室 CSN にて、10 月 25 日 11 時 30 分から EAS 豊田校にて、新型インフルエンザに関する講話を行った。12 月 13 日に新型インフルエンザの予防と対策に関するチラシを作成、印刷し、12 月 15 日ブラジル人学校、日本語教室に配布した。また、保見が丘ブラジル人協会が作成している情報誌「保見が丘イ

ンフォメーション」の 1 月号に我々が作成した新型インフルエンザに関する情報を掲載していただいた。

③ 健康フェスティバルの開催

平成 21 年 10 月 3 日、10 時から 16 時まで、豊田スタジアムで行われた豊田日伯協会主催の「ビバ！ブラジルデー2009」にブースを出して行った。

（2）実施場所：

①病院会話集の作成、②医療マップ、医療情報の作成は保見交流館で行った。医療マップを用いたフォローアップも保見交流館で行った。新型インフルエンザの講話は保見団地集会所 141 棟 1 階の CSN と EAS 豊田校で行った。③健康フェスティバルの開催は豊田スタジアムで行った。

（3）実施体制：

外国人医療支援グループ「病院際集の作成と健康フェスティバルの開催」実行委員会（委員長：久保田クリスチーナ：外国人医療支援グループのメンバー概ね 5 名、ブラジル人学校教師 2 名、ポルトガル語、スペイン語通訳者 6 名。）協力団体：

NPO法人トルシーダ

病院会話集、新型インフルエンザの予防と対策に関する情報の印刷物を CSN 日本語教室に通う子どもたちを通じて保護者に配布していただいた。また、トルシーダが行う事業に参加する日系ブラジル人の方々へ配布していただいた。CSN 日本語教室では、新型インフルエンザの予防と対策に関する講話を行った。トルシーダが開催した健康相談会で、外国人医療支援グループはフォローアップを行い、日系ブラジル人の健康のサポートのための協働を行った。

ブラジル人学校

保護者への情報の伝達と不安の軽減を目的に、会話集、新型インフルエンザの予防と対策に関する情報の印刷物を保護者へ配布していただいた。また EAS 豊田校では、新型インフルエンザの予防と対策に関する講話を行った。情報発信のサポートとともに、日系ブラジル人の健康に関する情報を提供していただいた。

保見ヶ丘ブラジル人協会、豊田日伯協会

保見ヶ丘ブラジル人協会の発行する「保見ヶ丘インフォメーション」に、本事業で作成した新型インフルエンザの予防と対策に関するチラシの内容を載せていただいた。豊田日伯協会が主催の「ビバ！ブラジルデー2009」し、豊田日伯協会との連携を図った。

（4）対象者：

保見団地周辺のブラジル人学校、日本語教室に通う児童、生徒とその保護者、保見団地とその周辺に暮らす日系ブラジル人、ペルー人

(5) 実施内容

日時	実施内容
10月2日 11時～11時半	日本語教室CSNにて新型インフルエンザの講話 「予防と対策について」
10月3日 10時～16時	「ビバ！ブラジルデー2009」豊田スタジアム 健康相談、医療情報の発信
10月25日 11時30分～12時	EAS豊田校にて新型インフルエンザの講話 「予防と対策について」
10月25日 12時半～14時	病院会話集の作成
11月8日 12時半～14時	病院会話集の作成
12月13日 12時半～15時	病院会話集の作成 新型インフルエンザの予防と対策に関するチラシを作成、印刷
12月15日	新型インフルエンザの予防と対策に関するチラシを配布
1月17日 12時半～14時	病院会話集の作成
2月14日 12時半～14時半	病院会話集の作成 医療マップの作成
2月28日	医療マップ、病院会話集を配布
3月11日	健康相談会（NPO法人トルシーダ主催）にて、医療マップ を用いてフォローアップ

10月1日 新型インフルエンザの講話の準備

14時から16時まで、外国人医療支援グループのメンバーの看護師が新型インフルエンザの講話の準備を行った。

10月2日 日本語教室CSNでの新型インフルエンザの講話

11時から11時30分まで、日本語教室CSNに通う子ども10人を対象に新型インフルエンザの予防と対策について講話を行い、話し合った。ブラジルでは新型インフルエンザによる死亡者が出ており、子どもたちはインターネットやブラジルの衛生テレビで新型インフルエンザに関する情報を得ていたが、それらの情報は主にブラジル国内に関するものであった。予防接種のこと、手洗いやうがいの方法、早寝早起きや栄養のあるものを摂取し適度に運動を行うことの必要性などを話し合った。その後14時半から16時まで、外国人医療支援グループのメンバー2名で健康相談、医療情報発信の準備と病院会話集作成の準備

備を行った。

10月3日 「ビバ！ブラジルデー2009」での健康相談、医療情報の発信

10時から16時まで豊田スタジアムで行われた「ビバ！ブラジルデー2009」の会場でブースを設置し、健康相談、医療情報の発信を行った。参加者は外国人医療支援グループメンバー3名、看護師2名、通訳者1名であった。身長、体重計を設置し、肥満度を測定し、BMIが25以上の方に関しては体重や肥満に関する情報の発信を行った。肥満度の測定希望者は36名、そのうちBMIが25以上の方は6名だった。豊田市健康増進課より握力計、肥満度測定器、自動血圧計を借りて会場に設置し、健康相談を行った。健康相談を希望した方は30名、29名が高血圧に関する相談、1名が糖尿病に関する相談であった。健康相談を希望した方全員が、失業して医療費が払えず治療を途中で断念していた。診察時のコミュニケーションをサポートするために作成した「ばちばっぽの会診察室の会話」（財団法人愛知県国際交流協会平成21年度第1回国際交流推進事業補助金）は89名に配布した。

10月25日 EAS豊田校にて新型インフルエンザの講話

11時30分から12時まで、EAS豊田校に子どもを通わせるブラジル人保護者約100名を対象に、EAS豊田校の講堂にて、新型インフルエンザの予防と対策についての講話を行った。保護者は新型インフルエンザの予防と対策についての情報を手に入れたいと切望していたが、日本での予防法や対策に関する情報が手に入りにくく、不安を募らせていた。多くの保護者から質問が寄せられ、質問ひとつひとつに答え、保護者の不安軽減に努めた。

10月25日 病院会話集の作成

12時半から14時まで病院会話集の作成を行った。参加者は外国人医療支援グループ8名、ブラジル人学校の先生1名、通訳者2名。

2008年からの不況によって仕事を失い生活費を切り詰めるために通訳が雇えず、受診することが難しくなった日系ブラジル人に、受診や薬局での会話を補助するための会話集を無料で配布することを目的に、病院内で必要な会話をポルトガル語で作成した。看護師の資格を持つ講師が作成してきた文章を参加者が話し合いながらポルトガル語に訳していった。看護師は医療に関する解説を行った。話し合いの中で、日本とブラジルの医療文化の違いがあがった場合、それを記録し、冊子に載せて受診の補助のすることにした。

14時半から16時まで、外国人医療支援グループのメンバー8名でミーティングと次回の準備を行った。

11月8日 病院会話集の作成

12時半から14時まで病院会話集の作成を行った。参加者は外国人医療支援グループ5名、通訳者4名。

アルゼンチンの医師を講師に迎え、中南米での新型インフルエンザの対策について勉強し、10月から行っている病院会話集の作成を行った。医師は、中南米では、年配の方、乳幼児、気管支喘息、糖尿病、心臓病を患う人びとは感染した場合、重症化する例が多かったこと、新型インフルエンザの症状を伝え、受診を促す必要性があることなどを説明した。医師の了解を得て、この勉強会の内容を記載したチラシを作成し、配布することになった。またこの医師の話で、中南米の方々は具合が悪いとき薬局を積極的に活用することを知り、薬局での対応をも含めた会話集の作成の重要性を再確認した。インフルエンザの症状を医師に伝える時の文章を考えた。

14時半から16時まで、外国人医療支援グループのメンバー6名でミーティングと次回の準備を行った。

12月13日 病院会話集の作成、新型インフルエンザの予防と対策に関するチラシを作成、印刷

12時半から15時まで病院会話集の作成と新型インフルエンザの予防と対策に関するチラシを作成し、印刷した。参加者は外国人医療支援グループ4名、通訳者2名。

引き続き、病院会話集の作成を行うとともに、11月8日の勉強の内容をもとに、新型インフルエンザの予防と対策に関するチラシを作成し、220部印刷した。チラシの詳細は資料1を参照のこと。

15時から16時まで、外国人医療支援グループのメンバー5名でミーティングと次回の準備を行った。

12月15日 新型インフルエンザの予防と対策に関するチラシを配布

13時から17時まで外国人医療支援グループのメンバー1名と通訳者1名で新型インフルエンザの予防と対策に関するチラシを（トルシーダ50部、ピンタンドセッチ40部、EAS 豊田校100部、パウロフレイレ10部、ネクター10部、コミュニティ通訳者10部）配布した。

1月17日 病院会話集の作成

12時半から14時まで病院会話集の作成を行った。参加者は外国人医療支援グループ7名、通訳者2名、ブラジル人学校の先生1名、豊田日伯協会より1名。

引き続き、病院会話集の作成を行う。この日は、病院や薬局でよく使う言葉を中心に行った。食前、食間、食後という表現がわかりにくいので〇時に内服すること、と具体的な時間を示したほうがわかりやすい、「浣腸」はブラジル人にとってはあまりなじみがないなどの話が出た。

平成21年12月13日に作成した新型インフルエンザの予防と対策に関するチラシを、保見が丘ブラジル人協会の松田セルジオさんにお渡しし、保見が丘ブラジル人協会が作成している情報誌「保見が丘インフォメーション」の1月号

に掲載していただいた（資料2を参照のこと）。

14時半から16時まで、外国人医療支援グループのメンバー6名でミーティングと次回の準備を行った。

2月14日 病院会話集の作成、医療マップの作成

12時半から14時半まで病院会話集の作成と医療マップの作成を行った。参加者は外国人医療支援グループ9名、通訳者4名、ブラジル人学校の先生1名。病院会話集班と医療マップ班に分かれて作業を行った。

病院会話集については、処方箋が要らない薬を購入するときの会話も作成した。14時半から16時半まで、通訳者3名がポルトガル語表記や表現のチェック、修正を行った。

医療マップについては、アスリート広告社が作成した、平成20年度版旧豊田市の医療マップを、同社の許可を得て医療機関の名称をポルトガル語で地図上に表示した。作成した医療マップを印刷した（資料3を参照のこと）。

2月28日 医療マップ、病院会話集を配布

医療マップと病院会話集をブラジル人学校ピンタンドセッチ、パウロフレイレ、EAS 豊田校、ネクターに配布した。医療マップはA3サイズのを各1部ずつ配布し、ブラジル人学校が保護者の健康相談の際に医療機関の情報を提供できるようにした。病院会話集はピンタンドセッチ40部、パウロフレイレ40部、EAS 豊田校150部、ネクター10部を配布し、児童生徒に配布して、保護者の手元に届けていただいた。病院会話集については東保見小学校、西保見小学校、保見中学校にも配布した。

3月11日健康相談会（NPO法人トルシーダ主催）にて、医療マップを用いてフォローアップ

3月11日に開催された健康相談会（NPO 法人トルシーダ主催）にて、外国人医療支援グループは相談と説明とフォローアップを行った。この相談会は9時半から14時まで開催され、約30名の子どもが参加した。説明とフォローアップの際医療マップを使用し、受診しやすいようにサポートした。フォローアップが必要な参加者は2名おり、医療マップを配布した。このほかに、説明の際に受診希望者が1名おり、医療マップを配布した。

3 事業の実施による効果

以上の事業により、日系ブラジル人コミュニティに健康、医療の啓発を行い、日系ブラジル人の健康の保持増進に貢献した。また、ビバ！ブラジルデー2009やトルシーダ主催の健康相談会での活動により、参加者の健康の保持増進に役立つことができた。ブラジル人学校に通う子どもの保護者には、新型インフルエンザの対策と予防に関する情報が届きにくく、新型インフルエンザをめぐっ

てさまざまな憶測と噂が飛び交い、暮らしに混乱を招いていた。本事業により保護者が日本の情報を得て落ち着くことができた。

本事業では、①病院会話集の作成、②医療マップ、医療情報の作成、③健康フェスティバルの開催という 3 本柱をメインに活動を行ってきたが、これらの活動に保見団地とその周辺地域で暮らす日本人、ブラジル人、ペルー人、アルゼンチン人などさまざまな人びとが参加して事業目標を達成することができた。

また、本事業では、NPO 法人トルシーダ、ブラジル人学校の先生方、豊田日伯協会、保見が丘ブラジル人協会の皆様のご協力のもと、行うことができた。トルシーダやブラジル人学校の先生方とは、今までも連携をとってさまざまな活動を行ってきたが、本事業を通じて豊田日伯協会、保見が丘ブラジル人協会との新たな関係を構築することができ、今後の活動についても連携して行っていくことを確認することができた。

4 事業の実施に要した経費

人件費

通訳謝礼 30,000 円 (1500 円×20 時間。保見地区周辺で活動する通訳者の間では、通訳謝礼は 1 時間 1500 円が相場なため。)

翻訳謝礼 66,000 円 (A4 1 枚 3,000 円×22 枚。保見地区周辺で活動する通訳者が翻訳する場合、A4 1 枚 3,000 円が相場なため。)

スタッフ謝礼 66,500 円 (1,000 円×66.5 時間)

講師謝礼 15,000 円 (5,000 円×3 回)

10/3 看護師謝礼 18,000 円 (1500 円×6 時間×2 人。非常勤の場合、看護師の時給は 1,500 円が妥当なため。)

交通費

講師交通費 3,000 円 (1,000 円×3 人)

スタッフ交通費 9,000 円 (1,000 円×9 人)

10/3 看護師交通費 2,000 円 (1,000 円×2 人)

通信費 2,180 円 (郵便代)

印刷費 91,860 円 (印刷代 8,860 円、会話集印刷 83,000 円)

会議費 10,640 円 (病院会話集の作成、実行委員会の飲み物とお菓子代)

その他

健康相談時に使用したアルコール消毒代 598 円

文具代 1,111 円

書籍代 945 円

アスリート広告社地図使用料 10,105 円

「ビバ！ブラジルデー2009」ブース代 9,320 円

合計 336,259 円

5. 事業の継続・発展の見通し、今後の課題等

事業開始前、外国人医療支援グループメンバー5名程度で本事業をサポートできると考えたが、関係各所への連絡、書類作成、事前準備等に時間と労力を要したため、適宜必要時人員を増やして対応した。

本事業のメインである医療情報の作成と情報の発信については、今後も行っていく予定である。新型インフルエンザの対策と予防に関する講話やチラシの作成と配布は大変好評であった。今後も NPO 法人トルシーダ、ブラジル人学校の先生方、豊田日伯協会、保見が丘ブラジル人協会の皆様と連携しつつ、適宜ニーズのある健康保健に関する情報を訳してチラシや冊子を作成し、発信していく予定である。

しかし、この会にご協力くださっているコミュニティの通訳者が仕事や家族の事情により次々と帰国しており、事業ネットワークの存続が困難な状況にある。2008 年以降通訳者を確保することは難しくなっているが、活動に参加してくださる通訳者を探し、活動を継続させていきたい。

6. その他参考事項

作成した「病院会話集」の内容は以下の通りである。

